

ノ證蹟アルキハ官ノ大小ヲ問ハズ之ヲ紀シテ假セズ自ラ奮ツテ惡濶ノ風俗ヲ矯正セん  
督ヒキ今マ一朝ノ不幸ニ罹リテ榮譽ヲ害シ辱ヲ受ヘノ人ト爲ル勝ケ嘆ズ同シヤ天道ハ  
是ガ非カ固ヨリ空寂ノミ人爲ナシ以テ氏ノ榮譽ヲ恢復シタクコソアル  
大藏省ニテハ從來各府縣ヨリノ照會・渾フ本省詰ノ大書記ノ署名コケ往復セシガ今回  
其大書記官等ハ當局專務トナリシチ以タ以來ハ各局長ノ宛コテ照會スベシト達シタリ  
陸軍監倉ノ病因ハ如何ナル大患ニテモ本病院へ送致セズ監中ニテ治療スル事ナリシカ  
軍醫ノ申立ヨリ今般赤坂ノ同監構内ヘ長廿二間幅四間ノ病室ヲ新築サレ既コ患者モ  
多傳シタリ

陸中國閉伊郡斧石港ヨリ大橋鐵山ニ至ル鉄路ハ長程十里。テ明治七年十月ヨリ着手セシカ漸ク此程益石ヨリ七英里間出來シ日々々運送スル由去ル六日ノ大火ニ付三條太政大臣ハ參内シテ殘状ヲ奏聞アリケレハ陛下ハ痛ク叙感腳マセラレ御手元金一千圓ヲ下シ賜ハリ兩皇后ヨリモ金千圓ヲ賜ヒタリ

魯京シントペーロルホルグノ發報ニ據レバ市街頻リコ訛チナシテ曰ク英ハ「ペルシヤ」ト迎合シテヘラツトナ占領セントスルモノナリト而シテヨロス新聞モ亦タ此事ロ付ペルシヤノ魯國ニ對シテ恩義ヲ忘却シタルヲ責ム  
警視局ノ探索掛ノ中ニ是迄取締ノ名義アリシカ今般詮議ノ次第アリテ廢止サレシト云

三十日 火曜日 晴 正午寒暖計五十度  
西京齋御所即テ御苑内ニ觀象臺ヲ設ケラレ最ハヤ器械ノ据付等御テ内部ハ奏功セリ  
福島縣岩代國那麻郡猪苗代湖開鑿ノ事ハ世人ノ熟知スル所ナルが起業ノ景況ナ同縣

財勸農局へ通信せり。曰ク福島縣下岩代國耶麻郡猪苗代湖開墾ノ起業タルヤ勸農局ノ直

轄ニシテ一大工事タルハ世人ノ了知大ル所タリシガ本年十二月初旬ヲ以テ諸工齊レリ  
下手セリ就中戸ノ口堰、十六橋ノ兩岸、敷下ケ工事ハ同五日ヲ以テ起工、蓋シ該堰ハ若  
松市街過半ノ飲料及セ下流八万石余ノ用水ヨシテ二十日ヲ限リ成功セザレバ飲料  
ヲ欠クノ患ヒアリ且下流村落ノ苦情モ甚シシトセズ委員ノ最モ注意シ最モ苦慮スル  
所タリキ然ルニ豈計ソヤ起工ノ際寸志夫ト唱ヘ下流村落ノ人民或ハ四里外近キモ二三  
里外ヨリ五百餘人出夫シ非常ノ効ヲナス已ニ同七日八日ノ如キハ降雪尺五六寸ノ深キ  
至ルモ出夫尙止マズ實ニ士民子來ノ現況ニシテ思想ノ外ニ出タル景狀ナリ其原因ヲ  
探知スルニ裏ニ伊藤内務卿松方勤農局長ノ風雪ヲ冒シ嶮路ヲ厭ハズ親シク巡視セラレ  
シヨリ人民ノ鬱匱忽チ氷解シ日該工事成功スルトキハ下流ノ堰々從テ幾分ノ水量ヲ増  
シ爲スニ水分ノ全量ヲ私有スルノ理ヲ了得シタルヨリ寸志トシタルテ五百餘人ノ出夫ヲ請  
ヒ出タル者ト云フ此ノ如キ好都合ヲ得タルヲ以テ二十日間ヲ刻シタル工事モ纔々七八  
日ニシテ竣功ハルコトヨリ熱海村假埋ノ工事モ「是ハ往來ノ飲用水ノ工事」付乾  
涸スルヲ以テ更ニ他ノ水便ヲ求メ飲用ニ供スル者同十四日ニ落成シ山淵村工場サラ  
ヌキニ「地名也」溜築堤モ工事半ヲ過ニ沼上岩隧道モ左右ヨリ掘込ミタリ此工場ハ起業中  
最モ至要ノ所コシテ凡ソ二十万ノ工夫ヲ要シ十三年中成切ノ目的タリ蓋シ此工事竣功  
スルトキハ湖水東奔シテ熱海川水源ヨ注キ高サ數十丈ノ一大瀑布ヲ爲ス壯觀想フヘシ  
今ヤ五百餘人ノ出夫タルモ已ニ降雪ノ季ニ迫リ工事摶トラズ尙ホ消雪ノ時ヲ俟テ報道  
スベシ

丁午寒暖計五十度  
三十一日 水曜日 晴

風説ニ據レバ事故ナクシテ改名ナルコ計ハ成ヌ規則ノ處來年ヨリ出願次第自由ニ認可

サセト

明治十三年一月一日 木曜日 晴 舊曆十一月廿日 正午寒暖計五十一度  
伏シテ惟ミルニ本日ハ是レ神武天皇即位紀元二千五百四十年一月一日ニシテ明治中興  
ノ十三年ナリ四海廣ナク妖氛悉カ大殊ニ蒼天晴朗千門萬戸蒼松綠竹ノ間タヨリ紅旭ノ  
國旗ヲ翻カヘシ各々萬歳ヲ唱フ誰カ欣々抃舞シテ大平ヲ賀頌セザランヤ我輩モ爲ヨ  
大白チ舉ケ新年ヲ祝シ併セテ大方ノ看官ニ恭ク祝賀ノ二字ヲ呈シ机上ヲ清メ舊ニ依テ  
百般ノ事項ヲ報道スルニ忘ダラザラン一欲ス

二日 金曜日 晴 舊廿一日 正午寒暖計五十一度  
海軍省醫務局ニ於テハ當春卒業スル生徒二十名程アルチ以テ嘗テ醫員ノ缺乏ナ告シモ  
爲ニ補ナスニ至ルベシト  
聞ガ如ンハ府縣官任期例中ノ滿年賜金ハ差止ヲレント

地方官會議所ハ愈ニ華族部長局へ開設スルニ決定セラレタリ  
府下南豐嶋郡ノ和泉村田端村ハ昨年意外ノ豊作ニテ収穫ノ殊ニ多ニ付同村人民協議ノ  
土凶歲ニ備フル爲メ村内ヘ二ヶ所ノ納屋ヲ建設シ各自収穫ノ四分一ヲ積置ク事ニ決定  
シ又田地僅少ナル者ハ畠ノ賣高ヲ以テ月番世話掛ヘ預ケ月番滔ハ之ヲ東ヲ銀行ニ預ク  
ル事ニ共議整ヒタリト云フ

三日 土曜日 晴 舊廿二日 正午寒暖計五十度  
築地居留地ノ獨乙領事館ハ洋風ノ綠門ヲ廢シ松竹ニ注連縄ハ引キ純然タル日本飾リニ  
改メタリ蓋シ日本ノ輕佻ノ輩が無益ノ失費ナ出シテ有用ノ木棟ヲ伐リ洋風ノ綠門ヲ作  
ルニ比スレバ得失果シテ奈何

山形縣東村山郡長筒井明俊ハ地方稅費目中ニ火災保險費ソニ項目ヲ添加シタキ旨ヲ内務  
卿ヘ主言シ其大意曰ク夫ノ火災ノ恐ルベキハ固ヨリ疎々ニ待タズシテ明カナリ一  
タヒ之ニ遇フキハ家之計爲必シ衰ニ而シテ本邦家屋ノ制タル概ニ之ヲ繞ラスニ燒ケ易  
キ木ナ以テシ之ヲ覆フニ燒易キノ茅ナ以テス家何ノ時カ興リ國何ノ時カ盛ソナラン豈  
痛歎ニ堪ニヘケンヤ明俊爰ニ憂ルアリ義ニ別冊ヲ起卿ニ之ヲ郡内ニ諭セリ然ル此事タ  
レヤ獨り一郡ニ止リ其業タル之ヲ自營ニ任スルトキハ其結果モ亦タ知ルベキノミ聞ク  
政府難ニ火災保險局ヲ置シト欲スルノ盛舉アリト今ヤ地方官會議ノ期近キニ迫レリ願  
クハ此時ニ縣ニ地方稅費目中更ニ火災保險費ハ一項ヲ加ヘラレ必ス巨數割ノ一半或ハ  
幾分ヲ以テ之ヲ充テ各府縣中ニ於テ各郡或ハ各町村ノ數ニ基キ火災ノ有無ヲ論セス每  
年幾許ノ家屋ヲ改造スルノ豫算ヲ立テ戸數割ヲ出ス者ナシテ一般ニ抽載セシメ當載者  
ノ家屋ハ必ズ其經費ヲ以テ之ヲ改造スルノ制ヲ立且適宜消還ノ方法ヲ定メラレシ事チ  
然フハ年ヲ逐テ其燒ケ易ク焚易キノ木ト茅トハ漸次ニ燒ケズ焚ヘザルノ瓦ト堅壁ト煉  
瓦トロ變シ獨リ家屋ノ火災ヲ防クノミナラズ國家ノ隆盛ヲ禱補スルニ於テ鮮々ナラサ  
エモノアランガ云々

四日 日曜日 晴 舊廿三日 正午寒暖計五十二度

三條山縣鳥尾井上ノ四君ハ本日ナ以テ豆州熱海ヘ赴カレタリ菴說ニ據レバ一樣ノ游興  
ニ非ス必ズ機密ノ談話アルカ爲ナラント  
昨十二年中横濱稅關ニテ輸出入品ノ元價ハ輸出〇千八百九十七萬九百七十九圓六十四  
錢 輸入〇二千三百五十萬五千三百六十二圓六十二錢輸入ノ輸出高ニ越ルコト四百五  
十四萬四千三百八十二圓九十八錢 収稅高輸出〇六十九萬千四百圓四十六錢七厘同輸  
入百十二萬六百二十七圓五十三錢三厘諸收入〇一萬六千七百八十二圓九十八錢二厘

貨幣ノ輸出〇千百九萬三百十七圓九十一錢同輸入〇二百三十二萬八百三十圓貨幣輸出  
ノ輸入ニ起ル事八百七十五萬九千四百八十七圓九十一錢毎度ハヤ

五日 月曜日 晴 舊廿四日 正午寒暖計五十六度

福岡縣下鏡前國名島町共愛會ノ景況ヲ聞クニ該縣士族郡利氏が首トシテ諸有志ト謀リ  
初メノ趣意ハ條約改正ヲ求ムルニ在シカ條約改正ヲ求ムルハ國權ヲ弘張セザムラズ  
國權ヲ弘張スルロハ國會ヲ開クニアリト謂フヲ以テ遂ニ國會開設及ヒ條約改正ノ二件  
ナ政府ニ建言スベキニ決議シ同志賤名ヲ各郡區へ派出シ普ク右ノ趣意ヲ説シノヨリ  
諸説紛々湧ガ如ク翌七日ニ達ニ審議ノ未該二件ヲ建議スベキニ決セリ此會同ノ趣意及  
向陽社強忍社漸強社養成社習志社清胸社篤志社忠國社其他各郡ノ有志者共昨年十一月  
六日ヲ期シ福岡ノ聖福寺ニ會同セシ者八百餘名假リニ席長ヲ撰舉シ討論ヲ開キタルロ  
會議ヲ開キ竟ニ毎郡區ヨリ三人若クハ五人ノ委員ヲ公選・其郡區ノ總代ト爲シ同十二  
月一日ノ會議ニ參與スルニ至レオ一郡利ハ是マテ縣廳ノ官吏ナリ・が同日辭職シテ  
福岡區ノ總代トナリ其他怡士志摩早良ノ郡長中村耕介遠賀郡ノ書記毛利晋一郎等ノ諸  
氏モ同シ次辭職シ此舉ニ從事セリ議長席ノ傍ニ答辨席并ニ番外ト稱シ傍聽人ノ發言席  
ナ設ケ滿場甚タ整補ロシテ傍聽人夥タ・シク中ニハ近國ヨリ來聽ニ出シ者アリキ議長  
郡利副議長ハ林斧介ト定マリ同五日ヨリ開會七日ニ諸事決議八日ニ閉會式ヲ行ナヘ  
リト而シテ議長郡利ヨリ備前岡山ノ西殺一始メ各地國會熱望ノ有志ハ檄文ナ移セリ其  
大意ヨリ曰ク頃・我鏡前國民結團・タ共愛公衆會ト云其旨趣タル現行條約ノ改正ヲ求ム  
則ニ於テ國權ヲ弘張スルノ基楚タル國會開設ヲ希望スルニ在リ公道ノ存スル所氣運ノ  
北支能ハ無事所公衆樂之如ク應シ結合立申ニ成リ不日將サロ政府ヘ建言スル所アツシ

ナ次側ニ聞ク足下等諸君亦國權ヲ張ント欲スルノ同感アリ公衆ヲ結合シ以テ國會ヲ開  
設スル所以ノ者ヲ謀ルナ同胞ノ情豈感喜ニ堪フベシシヤ諺ニ有之五指ノ代ルノ<sup>ノ</sup>舉  
ニ奉ニ舉ルニ如ズ・足下等果シナ此ニ感アラバ利等其驕尾ニ付レ共ニ俱ニ國權ヲ弘張  
スルノ基礎ヲ成ス所以ノ者ヲ謀ラント欲ス抑モ利等雀鴉ノ群瓦礫ノ才豈敢テ座芥ヲ國  
家ニ積シトモ云ソヤ唯共同公衆ノ眞理一片心性裏ニ掩蔽スル能ハザルアルヲ以テナリ  
足下等以テ如何トナス水雲万里意ヲ盡ス能ハズ乞フ諒察セヨ

六日 火曜日 晴 舊廿五日 正午寒暖計五十三度

監視局コテ吊慰法ノ第二條第三條ヲ改正アリ其第二條ノ趣意ヘ課金ヲ各自月俸ノ百分  
ナ一ト定メ若シ贈與ヲ可キ人ノ多クシテ其割合ニ超ル時八月を割テ取納メ該収納ハ第  
四課コテ之ヲ板印第三條ハ其割合ハ總テ其月ノ給料ヲ渡ス日ノ額ニ基テ割出ス事ニ決  
セリト但シ此改正ニ付本月中ニ答議ナシシハ異議ナキ者ト看認決行セラル、ト  
贈從二位參議廣澤真臣公ノ令息金一郎ハ亡父生前ノ勤勞ヲ以テ華族ニ列セラレタリ  
七日 水曜日 晴 舊廿六日 正午寒暖計五十二度

府下北豐嶋郡井ノ頭村ハ今般御游獵場ニ決セラル  
英京龍動發ニ曰ク舊國皇帝ト皇太子トノ間ニ隙ニ生シタリ其原因ヲ推スコ皇太子ハ立  
憲政体ヲ立シト希望シタルニ皇帝ハ之ヲ拒絶シタルガ故ナリ  
東京府下ニ公債ヲ起シ將來火防ノ爲メ適宜ノ場所ニ火除地ヲ設ケ土壁ヲ築ク等ノ入  
費充ルノ由  
西班牙皇帝アルフホソトハ兇徒ノ狙撃ニ逢ヒシカ幸ニ微傷ダセ負ヒ給ハサリシト  
去年中清國人ノ「メキシコ」銀坑ヘ出稼ニ渡航セシハ六千二百六十五人同シク鑛業ヲ終  
タ若干ノ蓄財ヲ得テ歸國セシハ七千三百二十二人ナリト云ラ

八時木曜日 晴 舊廿七日 正午寒暖計五十五度

米國前大統領クランド君ヨリ君が東遊中接伴掛タリ某寄賜サレタル書ヲ得タレ  
ハ譯文ナ揭ク一筆啓上仕候桑港一書呈上致シ置候定メ御落堂被下候事ト奉存  
儀爾後交際多忙寸暇無之御無音罷在候歲末頃ハ新紐克邊ヘ罷越候等付緩々呈書川仕  
且貴國深留中非常ノ御世話様相成候方々何歎謝品呈上可仕存居候拙者儀貴國遊歴ハ  
快樂并ニ貴國政府人民ヨリ相受候想到ノ御禮遇ハ決シ忘却致間敷節國以來朝夕其事  
ハ諸友ト相話・居候事ニ御座候下國人民貴國ナ敬慕シ其進歩安寧ナ欲望致候其情念  
ハ深切ナル未曾有ト申候モ敢テ過言ニハ有之間數向後ハ米人ノ貴國ヘ遊歴致シ候者非  
常ニ相増可申拙者儀モ貴國政府人民ノ御厄介ニ不相成様數年内ニ今一度貴國ヘ遊歴致  
度モノト相考居候下國ハ近來商業ノ形況舊ニ復シ盛大ニ相成千八百七十三年商事ノ大  
困難ニ遭逢致候以前ノ如ク諸事繁昌萬民歡娛罷在候扱過日ハ日支ノ事情爲御知被下難  
有何卒兩國ノ間後怨ナ遺シ不申様葛藤解散ノ程希望ニ不堪候拙者遊歴中御面會致候諸  
官員紳士并ニ御世話被下候延遞館掛ノ諸君へ何卒厚ク御致聲被下度荆妻ヨリモ厚申出  
候也

十一月十六日

チカニ發

岡山縣人民が國會建設獻言ニ奮起タルハ昨年縣會開設ノ時議事モ行届キ意外ノ結果  
ナ來セシヨリ議員ノ内ニ大ニ感覺ヲ起セシ者少ナカラズ因テ實地ニ就テ四隣諸縣ノ景  
狀ヲ察スルコ孰レモ同一干戈ヨリ大ニ發明ス・所アリテ遂ニ這般ノ事ニ至リシナリト  
泰西ノ諺曰「薦チ採ラントスルニ怯テ之ヲ握レバ必ラズ手ヲ刺ス断シテ之ヲ握レバ  
輒スツ採ルナ得ベシト宜哉乎言ヤ去歲地雷火ナ以テ魯帝ヲ爆殺セントシタル兇徒ナリトノ嫌疑ヲ以テ「モスコニ」府ニ於  
テ鐵道ノ傭人數名拘引セラレタリ

九日 金曜日 晴 舊廿八日 正午寒暖計五十五度

一昨年中酒造願ノ額ハ清酒三百八十三萬五千六百九十二石八斗七升八合○銘酒千六百  
八十一石四斗四升○白酒千三百卅五石三斗四升四合○味淋酒二萬二千四百十七石四斗  
三升○燒酒三萬五千零四十三石零六升八合○潤酒三萬八千五百七十九石三斗八升二合  
總計三百九十三萬四千七百四十九石五斗七升二合此米一割二分五厘ノ減物ト看做シ三  
百十萬七千百五十一石ナリ

皇居御造營ハ來ニ二十日頃着手セラルニ付舊二ノ丸内へ造營事務局ナ新築サレ工事  
ノ管理ハ德大寺宮内卿ニテ落成ハ七ヶ年ノ見込ナリト壯嚴奉想スベシ  
西京四條北ノ劇場ノ檻ハ往昔同座所有主ノ先祖名古屋山左衛門ナル者が豊臣殿下ノ御  
所望ニ依リ申樂田樂等ナ御覽ニ入タルトキ殿下ノ目障リナリトテ城中ノ隅櫓ナ一ヶ所  
取拂ヒ之ヲ山左衛門へ賜リシヨリ同人ハ其櫓ナ以一劇場ヲ建築シ恩賜ヲ子孫ニ傳ヘン  
ガ爲メ縮造シ軒頭ニ揚シニ根據スル者ナリト

地方官會議ハ六百名ナ限リ傍聴ナ許サルト云フ  
眞言宗四本山公稱ノ儀ニ付客歲十一月十一日ヨリ本山宋寺ノ僧徒等共同會議シ此回更  
ニ左ノ如ク公稱決定ノ旨其筋ヘ届出セリ 總本山教王護國寺ナ長者寺ト公稱○總本  
山金剛峰寺ナ前長者寺ト公稱總本山長谷寺ナ大本山ト公稱總本山智積院ナ大本山ト公  
稱

華族ノ中廳香間祇候ハ官吏ニアラズト確定セラレタリ

十日 土曜日 晴 舊廿九日 正午寒暖計五十五度  
豆州ノ噴火山ハ此頃非常ニ噴裂セリト  
高知縣ノ植木枝盛ナル者ハ一旦演説ヲ禁止サレテが去十二月廿七日ナ以同縣廳ヨリ左

ノ如ク申シ渡サレタ。其方儀明治十二年十一月廿日ノ夜立志社演説會場。於テ演説  
スル旨趣。傍リ演説禁止候處。自今解禁候事。

十一日 日曜日 晴 薩三十日 正午寒暖計五十一度  
客年十二月十三日福岡縣ヨリ博物館ニ送致シ既ニ同館ニ陳列。タル石偶人ハ日本記及  
ヒ筑後風土記ニ據レバ、繼體天皇ノ御宇國造磐井ナル者、驕奢分ナ亂、豪強暴虐ニシテ  
皇命ニ服セズ嘗テ生前ニ己レノ墳墓ヲ築キ石人石盾各六拾個及ヒ石馬三頭ヲ造リ軍陣  
ノ行ナ爲シ以テ墓ノ四面ヲ周匝ス同廿一年天皇物部大連鹿火ヲ遣シテ磐井ヲ征ス磐  
井軍ニ抗ス可ラザルナ知テ、豊前國上膳郡ニ遁ル之ニ因テ官軍憤怒ニ堪ヘズ其墳墓ノ  
石人ヲ擊チ碎キ或ハ石馬ノ頭ヲ打壘シテ去レリ慶長年間田中吉政福島筑城ノ際コノ石  
人石盾ヲ以テ石垣ノ用ニ供ス惜ム可シ此際過半散失セリ故ニ福島城ニ尙ホ其殘片ヲ止  
ムナル可シト云リ而シテ同館ニ陳列サレタルハ吉田村ニ存シタル者ニシテ案ズルコ此  
像ハ男子ノ狀ニシテ面部ノ左右ニ垂レタルハ當時ノ髪ノ風ニシテ所謂ル角髪ナル者ナ  
リ帶ノ下ニ佩タルハ刀ナリ其製造粗惡ナリト雖モ甚々古雅ニシテ且ツ上代ノ風俗ヲ考  
證スルコ足ル可キナリ

十二日 月曜日 晴 薩十二月朔日 正午寒暖計五十三度  
地方官會議ノ節長官差支ノ用アル時ヘ次官上京致スベキ旨ヲ兼テ布達サレバガ本年ハ  
相成ベクハ長官ニ上京スベキ様再達アリシトガロ聞クハ  
聞ク所ヨ據レバ各地方トモ小札拂底ニテ日用取引上ニ差支ヘ困却尠ナカラズ因テ政府  
ヘ小札ノ引換ニ請求スル者多キ由ナルが最ハヤ政府ニ於カハ五十錢以下ノペラハ製造  
ナレズ銀貨ト銅貨トノ盛ソニ鑄造シテ一圓以下ノ流通ニ充テラルト

東京書籍館ハ一兩日前ヨリ舊規ノ煩ナ除キ簡便ノ方法ニ改メタレバ閲覧人ノ爲メロ  
脣ノ便宜ヲラン

十三日 火曜日 晴 薩二日 正午寒暖計五十四度  
去ル七日高知立志社員平尾喜壽ト福嶋ノ石陽社員佐久間昌熾ハ仙臺ニ至リ愛國社ノ同  
盟ヲ募リシカ應ズル者多ク翌八日ハ同地ニ發足シ岩手ヲ經テ酒田山形等ノ有志者ト謀  
リシニ各十名十五名宛ノ同志者アリテ來ル三月大坂ニ於テノ大會議ニハ各々之ニ臨ム  
見込ナリト  
相州足柄郡真鶴港ハ豆州熱海ヲ距シ二里半ナルガ今回豆相ノ有志者共同シテ港内ヲ測  
量シ淺瀬ヲ浚ヒ漁船碇泊スルニ差支ナキ様改築シ專ラ東京ヨリ熱海ニ至ル舟楫ノ便ナ  
開キ同港ニ於テ兩國ノ生產會社ヲ設立シ盛ソニ東京ヘ物品ヲ輸送セント協議中ナル由  
ベク農部卿ハ蓋シ蛙端ノギフ太ナラン歟

十四日 水曜日 晴 薩三日 正午寒暖計五十三度  
聞ク政府ハ不日農部省商部省ノ二省ナ置カレ農部省中ニ農範局ヲ南部省中ニ物產局ナ  
置キマタ農工會議所ヲモ開設ヒラル、ナリト想フニ商部省ノ卿タル者ハ井上參議ナル  
山形秋田兩縣ナ出羽區ト爲シ其他七區ヲ置レ都合十二區ニ定メラルト  
内務省勸農局ヨリ各府縣ヘ新置サル、勸農事務ハ關東八州ヲ合シカ關東區トシ福島宮  
城兩縣ナ合シテ岩代區トシ長野新潟兩縣ヲ信越區ト爲シ岩手青森兩縣ヲ陸奥區ト爲シ  
金祿トハ甚ダ相違アリト不平ニ懷キ縣廳及ヒ内務省ヘ數回差金ノ下ケ渡シテ山願セシ  
ガ聞届ナラザルヨリ終ニ小野宮佐喜其他數名ガ總代ドナリテ出京シ更ニ内務省ヘ歎願  
・出クリ

十五日

木曜日 舊四日

正午寒暖計五十三度

紅茶製造傳習所ヲ堺熊本岐阜大分ノ四縣へ開設サル、ト  
彼ノ愛國社ハ兼テ東京へ分社ヲ設立スルノ説アリシが彌ロ京橋區西紺屋町ニ位置ヲ占  
メ社員河野廣中氏が擔任ニテ不日開場スルト開ケリ  
東京ヨリ上州高崎ニ至ル鐵道建築ノ事ハ豫テ世人ノ了知スル所ナルが今般其行程二十  
六里ノ線路再閲セラル、ト  
英京發ニ曰ク「アイル蘭ト」ニ於テ暴劇ナル一揆蜂起シタリ曰ク伯露及ビボリヒア兩  
共和大統領ハ遁逃シタリ

明治十三年一月新刊  
東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社  
社主 小笠原美治  
編輯 同人  
印 刷 吉野朝計

佐藤左喜次編纂

## 訴訟要錄

西洋綴一冊 定價金一圓五拾錢

訴訟ノ書タル汗牛充棧枚舉。遑アラズ然レニ完全不缺ナル者ハ蓋シ尠ナシトス此  
書ヤ明治三年ニ起リ同十二年ニ至ル訴訟ニ關スル發令ハ網羅シテ漏サヌ章欵順序  
チ別類シテ見ヤスカラシム實ニ訴訟書中ノ巨擘法律ニ從事スル諸君ハ暫クモ離ツ  
可ラサルノ至寶ナリ

餘文  
戲  
妙  
々  
雜  
俎自第一号 上下二冊合本  
至第十号

定價金四拾錢郵送稅六錢

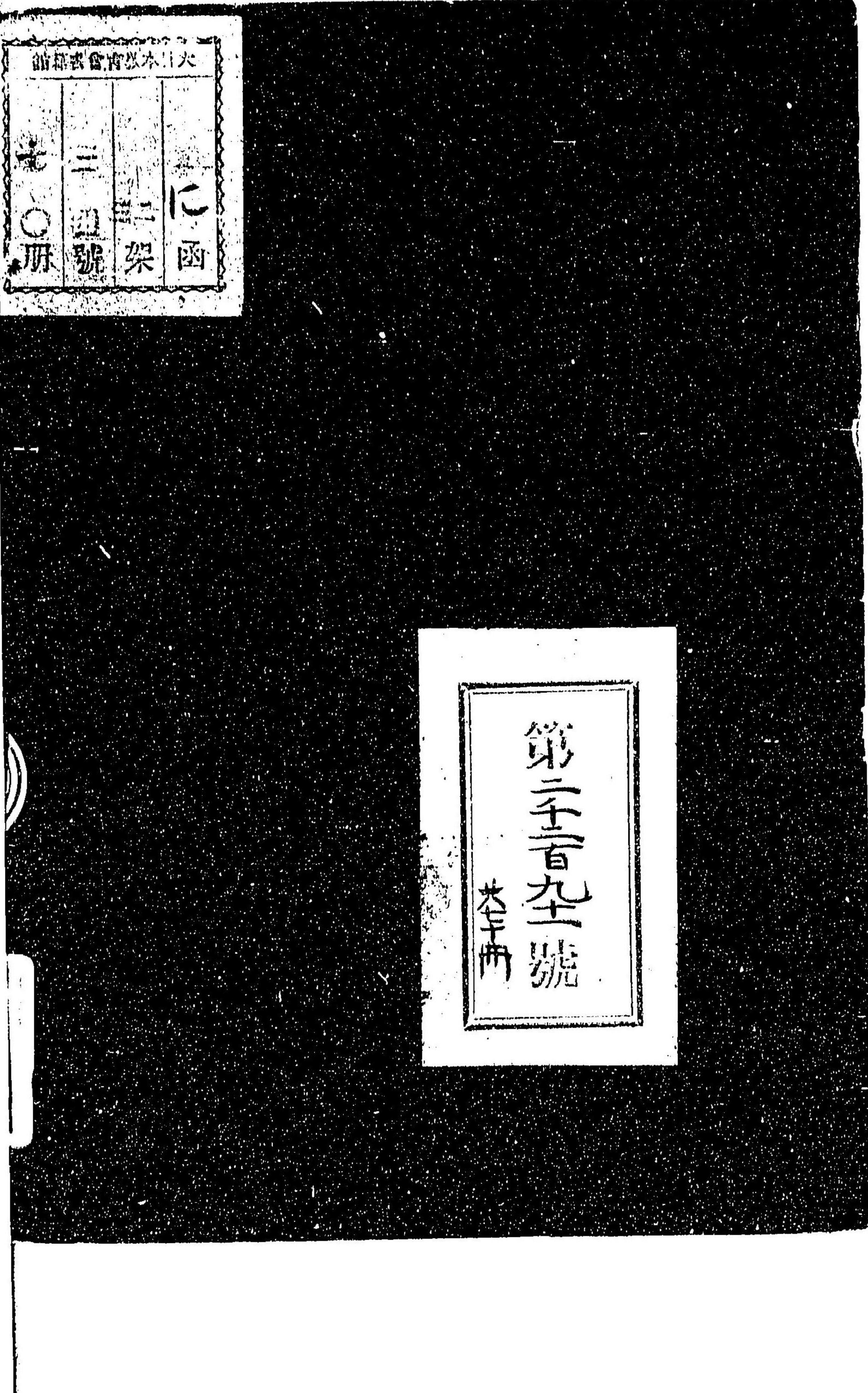
發賣所

弘令社出版局

卷之三

第二百九號

卷兩



030896-036-8

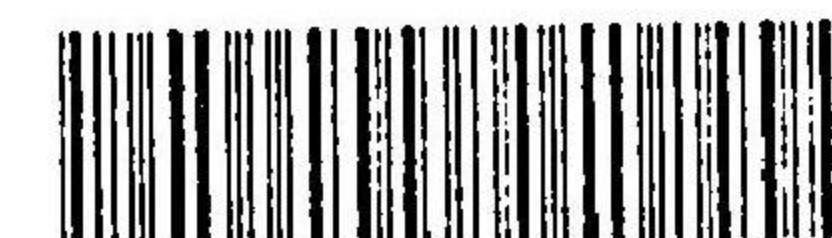
CZ-4-020

# 官令全報

弘令社

M 9-16

BBC-0177



官命全報

第四十二號